

ックワークが伴われることがあるが、黄鉄鉱そのものや銅鉱物は認められない。母岩には褐鉄鉱・赤鉄鉱が鉱染し、この酸化帯を切ってカオリン細脈が発達する。

#### d. その他の石英脈

前述した地区以外にも、調査地域の北西部、中央部及び南部の中新統または第四系中に玉髄質石英細脈が存在する。

#### e. 鉱脈の流体包有物測定結果

鉱化帯及びその周辺部で採取した石英細脈及び方解石細脈の流体包有物測定結果を巻末資料AP-5に示した。試料はいずれも古第三紀以前の地層・岩体中に胚胎する鉱脈である。カマローネス沢西部鉱化帯の石英斑岩中の石英脈は測定に適するものがなかった。

流体包有物は、カマローネス沢南支流の試料が気液2相包有物と多相包有物(透明及び不透明鉱物の娘鉱物を含む)からなるが、それ以外は全て気液2相包有物からなる。

塩濃度は総じて低い(平均0.4~0.7NaCl wt%)。

均質化温度は平均364~225℃と採取位置によって異なるが、平面的に一定の変化傾向を有する。すなわち、カマローネス沢中央部鉱化帯付近が最も高温で、南方に向かっては漸減するが、東方に向かっては急減する(Fig. 1-12)。また、北西部の鉱化帯は比較的高温である。

### (6) 変質作用

調査地域の変質鉱物の分布をFig. 2-2-42に示した。

カマローネス沢の西部~東部鉱化帯、カマローネス沢の南支流鉱化帯及び南端部鉱化帯にはセリサイト化及び珪化が発達する。カマローネス沢鉱化帯の西側及び東側はプロピライト化帯となっており、更に東方のIllapata地区にはセリサイト化が散見される。

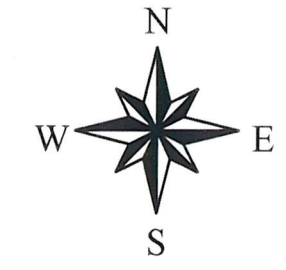
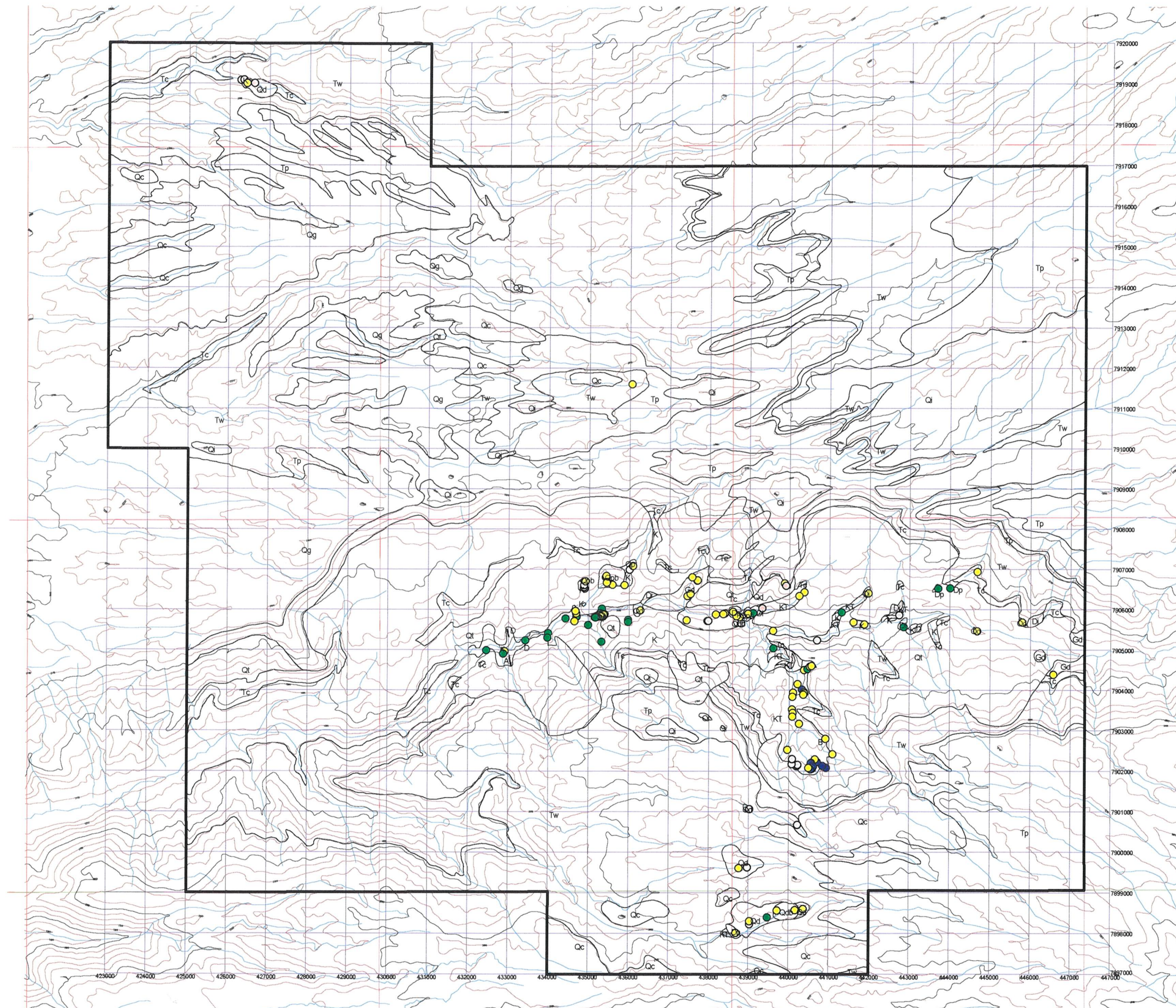
カマローネス沢中部鉱化帯及び南端部鉱化帯にはカリ変質作用が存在し、いずれもカリ長石化及び黒雲母化からなる。

北西端部の鉱化帯にはカリ長石化及び黒雲母化からなるカリ変質作用と、セリサイト化が発達する。

### (7) 地化学異常

地化学異常のしきい値の決定では、岩石地化学分析試料と鉱石化学分析試料を合わせた合計268試料の分析値を対象とし、その累積頻度分布の変曲点を用いてしきい値を5~7段階に区分した。また、検出限界値未満の分析値については、統計処理上、限界値の半値として扱った。

岩石地化学異常分布図をFig. 2-2-43に示した。各地区ごとの注目される岩石地化学異常は次のとおりである。



- Type of Alteration
- Silicification
  - Sericitization
  - Acidic alteration
  - Propylitization
  - Potassic alteration
  - ▭ Semi-detailed Survey Area (Camarones)
  - ▭ Geological Units (Camarones)

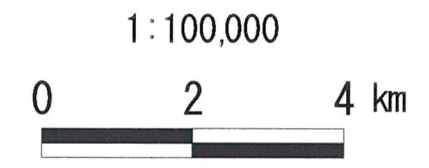


Fig. 2-2-42 Distribution Map of Alteration Minerals at the Camarones Area